ニュースレター

**2015年度JICA大学生国際協力フィールド・スタディ・プログラム**

日本政府が2012年6月に取りまとめた「グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議による作成）」では、国際的に誇れる大学教育システムの確立や高等教育の国際展開の推進を掲げられていますが、独立行政法人国際協力機構（JICA）が有する開発途上国における知見と、事業の現場は、グローバル人材に求められる資質を伸ばすには最適の場のひとつです。

本プログラムは、大学生が途上国の国際協力の現場でフィールド調査演習を行うことを通して、グローバルな視点と問題発見・解決能力を身につけることをJICAが支援します。

本年度40名の枠に対して応募者数が45大学138名（男62名、女76名） で、合格者は40名（男20名、女20名。その他補欠10名）でした。本学からは教育学部3年生の宇野満里加さんが合格し、来年ラオスに派遣されます。

なお、昨年度の応募者は88名。本学からは2名合格。経済学部1年（当時）荘眞奈美さんがカンボディアへ、同じく経済学部1年（当時）高橋佑芽さんがインドネシアにそれぞれ派遣されました。

本年は12月上旬に事前研修がJICA東京国際センターで実施。現地プログラム（ラオス）は2016年2月21日から3月6日。事後研修は3月15-17日実施されます。

現地プログラムは、＜前半約1週間＞国際協力プロジェクト・関係機関でのインタビュー体験。＜後半約1週間＞フィールドでの住民等との交流、生活状況に関するインタビューや観察による情報収集体験となっています。

来年度も9月に応募予定ですので、国際Gの掲示板をよく見ておいてください。

インターナショナルオフィス　熊谷